

## 平成 29 年度第 1 回仙北市総合政策審議会 議事要旨

- 日 時 平成 29 年 9 月 21 日（木）14 時～16 時 5 分
- 会 場 仙北市役所田沢湖庁舎 第 4・5 会議室
- 出席委員 佐藤正美会長、中村正孝副会長、門脇健郎委員、能美忠堯委員、能美大輔委員、新山睦子委員、赤上マツ委員
- 欠席委員 草薙隆委員、池本敦委員
- 市 門脇光浩市長、運藤良克総務部長、小田野直光地方創生・総合戦略統括監、藤村幸子地方創生・総合戦略室長、明平英晃地方創生・総合戦略室主任、柏谷有紀地方創生・総合戦略室主任
- 事務局 大山肇浩総務部次長兼企画政策課長、畠山徹企画政策課課長補佐、武藤晋企画政策課主事、豊島孝樹企画政策課主事

### 1. 開会（大山次長）

本日はお忙しいところお集まりいただきありがとうございます。本日の出席委員数は 7 名となります。会議開催の定足数となります過半数に達しておりますので、総合政策審議会条例第 6 条第 3 項の規定により、ただいまから第 1 回総合政策審議会を開催いたします。

また、委員についてですが、仙北市 P T A 連合会からの推薦委員が今年度より「伊藤 順 副会長」から「能美 大輔 会長」に変更となっております。よろしく願いいたします。

### 2. 会長あいさつ

お疲れさまです。今日は来るときに青空と黄金色にそまった田んぼをみながら、良い季節と思いました。年度としては半期くらい進みましたが、仙北市は 1 年通してイベントがありますのでとても忙しいと思います。市長をはじめ、職員の方々には大変ご難儀かけています。今日はとても難題な案件で皆さま苦勞すると思いますが、良い方向にもっていきたいと思います。10 月には門脇市長の 4 年間の集大成を問う選挙となります。それにも頑張っただけければと思います。またその次には衆議院の選挙がある可能性があり、こういった慌ただしい中でも着実に仕事をこなしていただきたいと思います。皆さまよろしく願いします。

### 3. 市長あいさつ

本当にお忙しい所足を運んでいただき、ありがとうございます。昨年皆さま方に委員をお願いし、昨年度の場合は庁舎の再編や公共施設の総合管理計画の審議をしていただきました。それが動き始めている中で、これでよいのかという議論がまだまだ続いていることは実際あります。さきほど会長からお話のあった催し物についてですが、日常業務は粛々と取り組んでいます。加えて多くの自然災害が発生し、これに対しても市民や職員また関係機関の方にご難儀をおかけしています。7 月～8 月と続いた大雨、9 月 14 日には秋田駒ヶ岳の火山性地震の話もあります。平常ではない状況です。専門家の方々に協議していただいています。今の所はレベル 1 ということで通常の監視体制でよいということをお話をいただいています。実際にレベル 2 に格上げになると、入山の禁止、ふもとの方々の弱者の避難誘導等が始まります。自然相手でどのようになるか名言できないもどかしさがあります。ただ、自然は厳しいだけではなく、黄金色にそまっ

た田んぼを見ると刈り入れがまもなくと思います。一方では山の幸は早めにできています。自然はどこかで人間を喜ばせてくれ、そしてどこかで試練を与えていると。その中であって人間は立ち向かうということではなく、いかに共存できるかと思っています。

今日は非常に難しい案件です。1点目の企業版ふるさと納税はインフォテリアから28年度から寄附をいただいている主な事業等です。また、2番目の総合戦略、3番目の総合計画の検証等ですが、この場でできればありがたいわけですが、もしかしたら会の進行状況では、持ち帰りいただいての検討ということになるかもしれません。いずれにしても政策を実現していくためには、マンパワーとそのための経費が必要なことには間違いありません。財政状況の健全に向けて努力をしていますが、その転換については道半ばな状況です。公共施設の総合管理計画でも機能が重複している施設については、改廃を進めさせていただき、できるだけ維持管理費を圧縮していくと。その圧縮した財源を政策予算に展開していかなければ厳しいという状況は、皆さまもご承知のとおりです。地方交付税も削減が続きます。こういった場面であっても仙北市を持続的に運営していくという議論は、この総合政策審議会の議論の方向性にかかっていると思います。どうか審議を皆さまよろしくお願いいたします。

#### 4. 審議案件

##### (1) 平成28年度企業版ふるさと納税を財源とした事業評価・検証について

藤村地方創生・総合戦略室長から資料を基に説明。

- ・企業版ふるさと納税は法人向けで、正式名称は地方応援税制となっている。
- ・寄附をした企業の法人税軽減がメリット。仙北市にはインフォテリアから100万円の寄附を平成28年度から行われている。個人からの寄付とは違い、国から認定をいただいた地域再生計画に基づいて行われる。仙北市が認定をいただいたのは「桜に彩られたまちづくり計画」。

##### ○佐藤会長

外国人観光客の誘致に少し関わったため、資料を配付させていただきます。左側が武家屋敷の歴史について、右側がその英語表記となっています。縁取りが樺細工となっています。市長、今まで台湾にターゲットを絞っていたが、タイに関して言えば県や国も絡んでいますか。

##### ○門脇市長

台湾については、仙北市が秋田県内のどこよりも先に交流を進めてきたので、特別な強みがあると思います。タイについては秋田県が招へい活動を重点的に行う戦略地となります。現在、県が進めている大きなターゲットはタイ、台湾、中国、インドネシア等です。私達は台湾とのご縁を大事にしていくことを第一位ですが、次に韓国。韓国のお客様も盛り返しがありますので、流れを作っていきたい。タイは東京オリンピックを景気として、合宿地として活用してほしいと県と一緒に進めています。市が独自に行っている中国については、温泉や医療のヘルスケアツーリズムのターゲットとなります。今のところ、台湾、韓国、タイ、中国が主な戦略的な取り組みの場所と認識しています。

##### ○中村副会長

取組から実施した内容、結果分析、今後の効果について進んでいっていると思います。桜も寿命がきていると思いますが、対策を進めていくことが必要だと思います。桜のまち

ということで、開花の違う桜を植えていくとありますが、現段階で具体策はありますか。昔といっても今もありますが、高野に桜が植えられています。これを続けていくなど。また可能かどうかはわかりませんが、田沢湖一周するような桜のトンネルも考えることも一つかなと思っています。

○藤村室長

今年は、カンザンやベニヤマザクラといったソメイヨシノよりも遅く開花する桜を古城山に植樹する計画となっています。古城山の場所は選定中ですが、それ以降は田沢湖畔もあり得ると思います。

○赤上委員

私も田沢湖の湖畔側、山側どちらも荒れてきていると思います。桜並木があれば誘客という面でも、温泉の機会にもつながると思います。

○能美大輔委員

初めての参加で検討違いのことを言えかもわかりませんが、外国人の集客に努めたとあります。遊び心と言いますか。私は角館駅前にいますが、外国人が窓口にきて言うのはサムライという単語です。日本人は恥ずかしかがって侍の格好はしたがりませんが、桜も素晴らしいですが、遊び心を持ったものがあればよいのかなと。また、現在の古城山の頂上付近の状況はどうなっていますか。あそこからであれば角館を一望できると思いますし、誰とも会わないので恥ずかしくなく侍体験ができるのかなと。

○藤村室長

6月に古城山に登りましたが、芝生の様になっていて、眺めもとてもよかったです。インフォテリアの広報担当者からも、チャンバラ体験イベントの提案もいただいています。

○新山委員

毎年古城山に登っていますが、あまり手入れされていないと思っている。基本は、既存の桜をどうやって保護していくかということも必要と思うし、それに加えて新しい桜となればロケーションは良くなると思うが、管理に費用が必要になってくると思います。また角館高校の山岳部で、あそこをポイントにトレーニングをしている。時期によっては下刈りなどの手入れがされているが、時期がすぎると全く放置状態だと思います。観光案内の看板もない。手を加えていくなれば、思っているよりいろんな面で費用が必要な気がします。

○佐藤会長

文化財課で手入れはしているのかなと思っています。なにせ老木ですから。ただ、シンボルです。

○能美委員

古城山に行ったとき、桜が見つらいと思いました。枝を整理して、上から見えるようにしたほうが良いのではないかと。ある程度、整枝しながら見えるようにしたらどうかと。それから土手の桜も80年となると思う。今桜係が見て、剪定していると思うが、それで若い芽がやっともっている。その部分を検証したことはありますか。弘前の桜は剪定

して、枝を出してもたせていると聞いたことがある。桜係もわかっていると思いますが、どのようになっているか検証した方がよいと思う。

○佐藤会長

落合の方の新しい桜は、文化財課と観光協会が一緒になって枝の剪定に毎年取り組んでいます。

○門脇委員

桜祭りのPRにも外国人のために頑張っていて良いとは思いますが、夜間の賑わいを求めて秋田市に流れていくということが書かれています。宿泊単価が高いのが原因とも思えるし、角館の宿泊施設が少ないことも原因かと思えます。泊まるといっても中国、タイ、台湾であっても料金が高いと泊まりにくいということがあると思う。観光協会の一本化を進めていますが、角館の桜をもっともっと整備して、宿泊は温泉のある田沢湖という流れのほうが、仙北市の観光としては将来には結びつくかと思えます。また、基幹産業である農林業プラス観光といった面でも道も開けると思う。どれをとっても経費がかかることと思えますし、行政でやるようなことではなく民間財源を引き出していくことになると思えます。そういった方向を狙いながら計画を立てて、そして進めていくべきだと思います。古城山の話もでましたが、花見である山に登る人は何人いるのかなど。年間400~500万の借用料がかかっていると思えますが、元はとれていないと思う。広い目で見たと観光産業にならないと難しい面もあると思えます。今計画を組んではいますが、行政と一緒にやりながら、これから考えていきたいと思えます。

○能美委員

古城山の桜はウソにやられているのではないですか。防除も考えなければ、古城山の桜も生きてこないと思えます。

○佐藤会長

チェックとアクションに基づいて評価をまとめたいと思えます。28年度の検証ですが、幸いなことに29年度にホテルが建設され、宿泊者数が増えるのではないかと考えています。それから桜の種類についても、土日祝に桜の満開がマッチすればよいですが、中々合わない状況です。桜を見に来る観光客は桜が散ればキャンセルとなってしまいます。

○門脇委員

角館のことだけが書かれていると思えますが、高原や田沢湖周辺は一週間遅く咲くと思えます。仙北市一帯でどうPRするかも検討するべきだと思います。

○佐藤会長

パンフレットに桜の開花時期を記載するなどが良いのではないのでしょうか。

○門脇委員

カタクリもあるし、ミズバショウもあります。だいたい開花時期は同じですが、開花期間は長いので、誘客にはつながると思う。ただ、どれだけ投資できるかどうかだと思います。大変苦しいのはわかりますが、お客さんが来てお金を落とすのであればよいという考えだけでは足りないと思えます。

○赤上委員

温泉協会のような団体もありますよね。あの人達に奮い立ってもらおうということにはできませんかね。

○門脇委員

一生懸命頑張っていると思います。

○新山委員

ねりんピックに参加された方々と話す機会があって、温泉施設の老朽化の差がありすぎるということをお話しされた。結局桜云々ではなく、そういったところでも連携して対応していかなければならないと思います。またアクセスが悪いとも言っていました。ねりんピックの方々は毎年いろんなところに行かれている方が多いと思いますので、情報としては確かな指摘かなと思いました。

○佐藤会長

それでは、継続して頑張ってもらいたいということによろしいでしょうか。評価は○でよろしいでしょうか。

<異議無し>

本件に対する当会議の検証・評価については以上といたします。

(2) 平成28年度総合戦略評価・検証について

柏谷地方創生・総合戦略室主任から資料を基に説明。

- ・評価一覧（A3 サイズ）に平成32年度に対する達成率を記載しており、そのうち10%未満のもの、仙北市の特徴である特区の部分、そして移住定住に関する部分の概要について説明。

○佐藤会長

本件につきましては、事前に資料が送られておりますが事業数も多く、また、内容についても説明を受けたばかりですので、評価につきましては事務局に期限を設定してもらった上で、各委員が提出し次回の審議会で評価したいと思いますがいかがでしょうか。

<異議無し>

0%であっても継続しなければならない事業があると思います。意見がある方はコメントを記入していただき、評価については全てをお願いします。この評価の◎部分ですが、こういった視点で考えたらよいでしょうか。

○大山次長

取り組みの継続「○」であれば、例年通りの予算規模または内容での実施。◎はさらに予算を増加するなり重点的に実施してほしい事業となります。

○佐藤会長

いろんな主要事業があると思いますが、市長、この中でこれだけは勘弁してもらいたいというのはありますか。

#### ○門脇市長

産業振興の部分。農林業の部分で担い手に関する事業については、何としてもかなえなければ農村地域がなくなってしまうという危機感です。今行っている取り組みで、まだ成果を期待するという方向性でよいのかなど。補助金を出して、作物を推奨するというやり方で本当に良いのかなという思いがあります。農村部と観光事業者との連携についてはずっとテーマで行われているにも関わらず、次のステップにいけないということは、私たちのやり方が間違っているのではないかという疑問を感じています。もう一つお話すると、子ども達の英語力については重要なことですが、外国からALTの先生を招へいする方法で本当に良いのかなど。市内で英語を取得している方もたくさんいますので、そういった方々に例えば公設の英語塾をやってみるなど、そういった方々に予算を投下していくという別の見方もあるのかなど。外国の方とお付き合いするのは、外国人観光客が多いので別の場面でも可能ではないかと思ったりしています。それから公共交通は最大重要な考えで、特化していかなければならないと考えている。温泉に浸かっていたら健康増進に取り組もうという協議会を開催しましたが、その温泉に行くための足がないという意見がとても多かった。温泉施設等でバス運行を細めにやるなど、そういったところの法律の規制緩和を考えながら、それを地域の公共交通にしていくなど。庁舎整備が進んでいくと同時に、全庁舎をつなぐ無料シャトルバスを考えているが、それが病院や診療所に行ったり、スーパーに行ったりと同時に温泉施設にもよったりとなれば、あまりにも停車するところが多くて、一筆書きできなくなってくる。それとは別に各企業にお願いして、公共交通の足の確保を実施しなければならないと思っている。これまで取り組んできた内容で本当に良いのかと思っている。例えば、就職支援。角館高校は県立高校なので私たちが指示を出せる立場ではないのは良くわかっていますが、角館高校の生徒が地元就職してくれるかどうか大きい問題。角館高校の教育のあり方やプログラムのあり方に、自分たちは地域に残ってもらえるという間口を作るための企業訪問などを徹底的にやってもらいたいですが、それは今の学校のプログラムでは横に置かれています。本当にやらなければならないことが、県や国などの縦割りとなってしまう中で、市がこれでお茶を濁しましたということでやっても残ってくれないと思います。そういったことを常に事業を考えるとときに私だけでなく、職員もみんな悩んでいます。口説いてしまった感じで申し訳ありません。

#### ○佐藤会長

英語力については、6歳でrとlの発音が決まると。中学生になれば日本英語にしかないそうです。そういった意味合いでは、子どもの時からの英語塾は良いと思います。合併はしたもの、足の合併はしなかったのでしょうか。バスの便は今だに変わらないので、生活不便は付きまわっていると思います。バス運行は必需と思う。年齢が増すほど足は大変。

#### ○門脇市長

これまで行ってきた移動スーパーさんも10月から辞めるとなれば、買い物にも行かれない、地域にお店がないと。今まで行政がやってきたサービスでは無いサービスをしなければ地域が残っていけないと思う。

#### ○佐藤会長

宅配業者が荷物だけでなく運ぶシステムがありませんでしたか。

○大山次長

例えばヤマト運輸が荷物を運びながら人も運べる、羽後交通が人を運びながら荷物を運べるという規制緩和がされましたが、具体的な動きはありません。

○佐藤会長

住居が外れであればあるほど、厳しいですね。

○市長

この前、内陸線に荷物を運ぶや買い物ができる様に考えてほしいと話しましたが、現実的ではなさそうだった。

○門脇委員

今移動販売している業者も経費がかかるためやめていってしまう。よねやでは西明寺まで配達するが、それより上にはいかない。そうなれば、一人暮らしの方はデマンドタクシーでも大変。バスは停留所があってどこに何時にくるかはわかるが、デマンドタクシーは予約しなければならない。家の前まで来てくれるというメリットもあるが、それは一部。携帯が無い人は不便。羽後交通があるときは、停留所に行くまで人と歩いて話したりと集落のコミュニケーションがあった。良い面もあるが、昔からつちかっていたものを壊しかねないと思っている。

○赤上委員

良いお話も少ししたいと思います。毎週土曜日になると紙風船館のところで35歳ほどの方が子供たちも集めながら、太鼓が鳴ります。そこに手踊りをする方も集まり、それが角館のお祭りにつながっている。賑やかな部分もできている。若者が地域を愛して、何かアクションを起こさなければと思ってのことだと思います。それから、非常に介護者が多いです。民生委員が中核になって、高齢者と家族を支える会を作りました。私たちではできない地域に住んでいる介護予防をするためのストレッチや太極拳をするチームが17名います。それから料理研究会もあります。わくわくマーケットを頑張っている方もいます。そういった方々がつながり、今度イベントをします。介護予防の知識をきちんと習って、最後は料理研究会が作った料理をバイキングして、情報交換をしましょうと。みんなで支えあっていくための会が発足しました。料理研究会ですが、今は閉鎖されている保育園を利用して、地場産業を使った料理の研究をしました。敬老会が中止になりましたが、注文をいただいた分は声かけをしながら、皆さんに配布しました。それから、介護保険を使いながら買い物の不自由な方のために、資格のない人でもいくらか講習を受ければお手伝いができますよと。そして小遣い程度をかせげるようになるというシステムになるらしいですね。それを介護保険のほうで勉強する機会を与えていただいて、それを受講すれば資格を取得できると。そういった流れができてきていて、それを仙北市でも率先して行っていただければと思います。今までは遠慮して高い経費をかけていたが、決められた経費で遠慮なく頼めると。そういったシステムは非常に良いと思います。どんどん働く場所ができることだし、地域の関わりが濃くなると思います。嘆いてばかりいないでアクションを起こさないといけないと思います。経費もかかりませんが、相談すれば運営体という組織もあります。

○佐藤会長

田沢や上桧木内の端の方からじわじわと良い話がでてきた様に思います。では時間が迫っていますので次の案件に移ります。

(3) 平成28年度総合計画（基本計画）実績調査C評価事業評価・検証について

畠山企画政策課課長補佐から資料を基に説明。

- ・目標評価一覧（A3サイズ）に平成32年度に対する達成率を記載しており、そのうちC評価部分について3ページから個票を添付している。

○大山次長

いずれこのC評価については、総合計画で実績があがっていない部分をピックアップし、そこに重点的に対応策を検討したいと意図です。この点を踏まえて評価していただきたいと思います。

○佐藤会長

今日の欠席者には評価の◎などの部分について、説明してもらいたい。長時間かかりましたが、皆さまには宿題という形になります。では市長からコメントをいただければと思います。

○門脇市長

今まで成果というのは、プラスだから成果というのが一般的でした。この後の社会情勢を考えると、指数が増加しなくても成果として捉えなければならない項目はでききます。改善される項目は、プラス思考でいけばありがたいことですが、改善されないけれども不要なものではないという取組は行政にとっても大きな仕事となってきます。先ほど買い物不自由者の話もありましたが、そういったことも行政の範ちゅうではなかったものだったりします。民間の企業では採算があわないから辞めるといえるが、行政ではそこに人がいる限りサービスをしっかりしていかなければならない。費用対効果がないものも取り組んで行かなければならない社会に突入している。数値だけの判断だけにならないように、地域事情をおくみ取りいただき、評価していただきたいと思います。

○佐藤会長

人口減少と高齢化が伴う部分ですので、数字だけでは測りしれないと思います。その点も評価しながらチェックしたいと思います。

○門脇市長

さきほど、私も疑問におもったのが水道の普及率。なぜ基準年より下がるのかと。水道加入者が辞めれば給水人口が減少します。やめる、やめざるを得ない、亡くなってしまったということで基準年よりも普及率は下がっていくことは十分にあります。そうなれば成果がないといわれるかもしれませんが、そうではありません。指標の見方も悩みになると思います。

○門脇委員

市長が言ったことは大事だと思います。議会をみていると費等対効果のみを議題にしてしまっていると思います。今後の情勢を考えるとそうではないと思いました。

○佐藤会長

私たちも宿題をしっかり検討したいと思います。それでは、議事を事務局にお返しいたします。

○大山次長

長時間にわたりご審議いただき、ありがとうございました。議事で決定したとおり、(2)と(3)については、次回の審議会で評価していただくということをお願いしたいと思います。このあと返信用封筒を配布しますので、意見があればコメント、評価をしていただきまして、できれば10月6日の金曜日までに返信をお願いします。皆さまからのご意見、評価をまとめたうえで次回の審議会の資料として提出します。日程については今回と同様、後日調整させていただきます。何か質問等がありますでしょうか。

○中村副会長

総合戦略の53ページ。総合計画の27ページも同じものがありますが、英語時間が週35時間と週70時間とありますが、これは年ではないでしょうか。

○大山次長

担当課に確認し、訂正させていただきます。もしそういった箇所を見つけた場合は、同じように指摘いただければと思います。よろしく願いいたします。もしわからないところがありましたら、事務局まで問い合わせいただければ対応いたします。

○赤上委員

例えば子育て支援に関して、大変充実していると思いますが、この面に意見がありますというのは記入してよいのでしょうか。

○大山次長

記入いただいてもかまいません。

## 5. 閉会（大山次長）

これをもちまして、第1回総合政策審議会を閉会いたします。長時間ご審議をいただき誠にありがとうございました。